

株式会社中北製作所

2023年度環境経営レポート

(対象期間：2023年6月～2024年5月)



エコアクション21

認証番号 0007707



作成日： 2024年 6月 3日

更新日： 2024年 8月22日

会社概要①

会社名	株式会社中北製作所
代表者	代表取締役社長 宮田彰久 執行役員 中尾敏昭
所在地	本社工場 大阪府大東市深野南町1-1 東京営業所 東京都港区海岸3-18-1 東京サービス 東京都江戸川区中央3-6-14 北九州営業所 福岡県北九州市小倉北区浅野2-11-15
創立	1930年5月28日
資本金	11億5千万円
売上高	186億円（第98期）
従業員数	本社460人 東京営業所25人 北九州営業所23人
事業内容	各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・ 製造並びに販売

会社概要②

**環境管理
責任者**

総務部長 林昌宏

担当者

総務課 福島恒太郎

連絡先

TEL 072-871-1331

FAX 072-870-1865

URL

<https://www.nakakita-s.co.jp/>

事業年度

6月～5月

敷地面積

42,900m²

延建築面積 41,000m²



ごあいさつ

我々、中北製作所は人類共通の課題である環境問題と前向きに向き合い、地域との共生を通じながら環境問題の改善に努め、当社の事業に関わる環境負荷の低減に向けた活動を実施し、未来に綺麗で住み良い地球を残すべく、地球環境の保全に貢献します。

環境経営方針

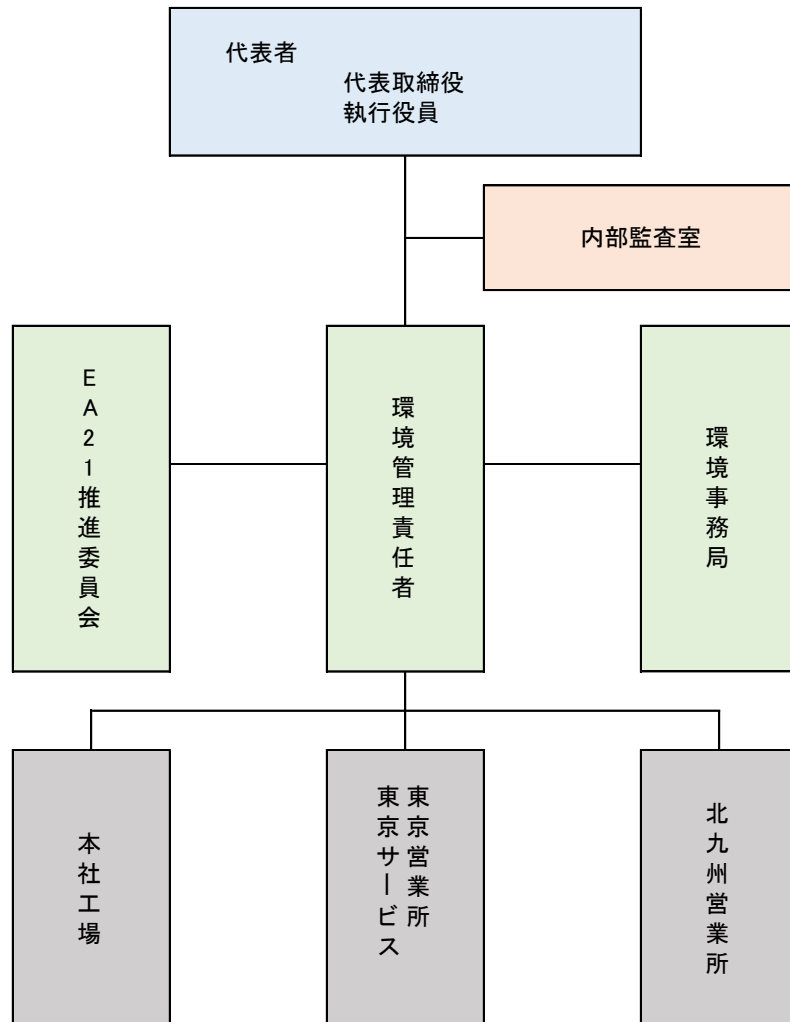
当社は、各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・製造並びに販売とそのメンテナンスを主に行う企業として、企業活動の中で環境問題への取り組みが当社の業績を左右する重要な要素ととらえ、省資源・省エネルギーに自主的、積極的に取り組み、経済発展と環境保全の両立を図る社会的責任を認識し、社会に貢献する。

- 1, 関連する法令・規制要求事項ならびに顧客や市場など外部からの要求事項を順守する。
- 2, 環境と品質の複合マネジメントシステムを構築・運用し、その有効性の継続的な改善と環境汚染の予防に努める。
- 3, 重点施策
 - 1) 環境負荷低減の推進
 - ① 二酸化炭素排出量の削減 ② 廃棄物排出量の削減 ③ 水使用量の削減
 - 2) 化学物質使用量の削減
化学物質（SVHC）については、適切な把握・管理が求められていることから、仕入先からの化学物質含有情報入手に関する連携を密にし、化学物質の適切な把握・管理にも努力する。
 - 3) グリーン購入やグリーン調達
 - 4) 製品への環境配慮
 - 5) 社会、地域と共生
- 4, この環境経営方針は、社内全体に周知すると共に、環境経営レポートを公開する。

制定日：2011年2月4日
改定日：2019年8月28日

代表取締役社長 宮田彰久
執行役員 中尾敏昭

対象範囲



対象活動

各種バルブ及び遠隔操作装置の設計・製造並びに販売。
下記に示す中北製作所の各種バルブ及び制御装置に係る
受注、設計、製造、検査、出荷に関連するプロセスに
適用する。

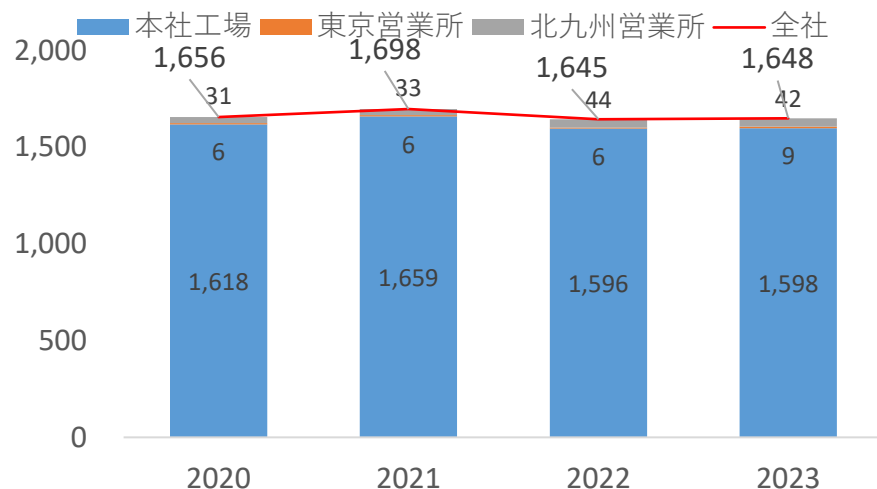
- ①バルブ ：調節弁・調整弁・シリンダ弁・電磁弁・安全弁・電動弁、バタフライ弁・一般弁を含む各種バルブ
- ②計器・計装品 ：レベルスイッチ、コントローラ、ツインパワーを含む関連機器
- ③遠隔操作装置 ：カーゴバルブ及びバラストバルブ用操作盤、パワーユニット、油圧機器、遠隔液面指示計など
- ④その他の製品 ：レデューサ、ストレーナなど関連機器
- ⑤上記①～④に係る部品、ユニット又はそれらの組合せ品
- ⑥上記①～⑤に係る付帯サービス

役割・責任・権限

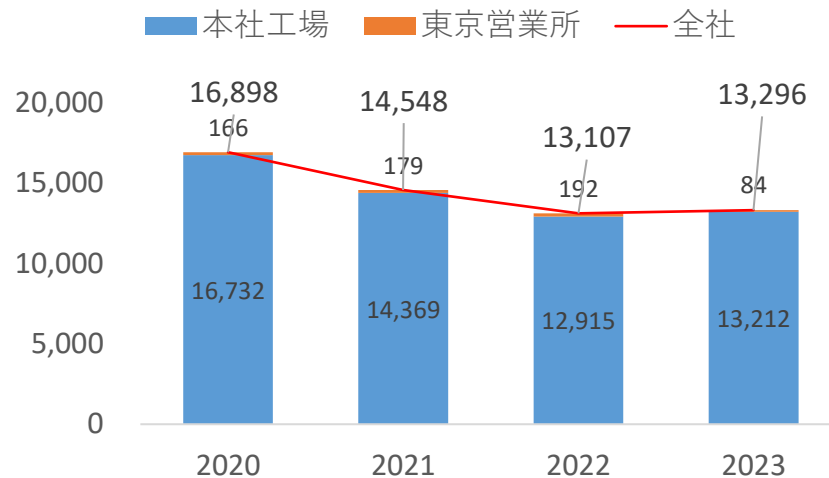
	役割・責任・権限		役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・実施体制の構築	環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
内部監査室	・内部環境監査の実施 ・内部監査計画 ・前回審査のコメント確認 ・各部署環境経営計画の確認	EA21推進委員会	・環境活動内容の検討 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・環境経営レポートへの活動報告の掲載原稿の提出 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理
所属長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施	全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開 ・内部環境監査の実施		

主な環境負荷の実績

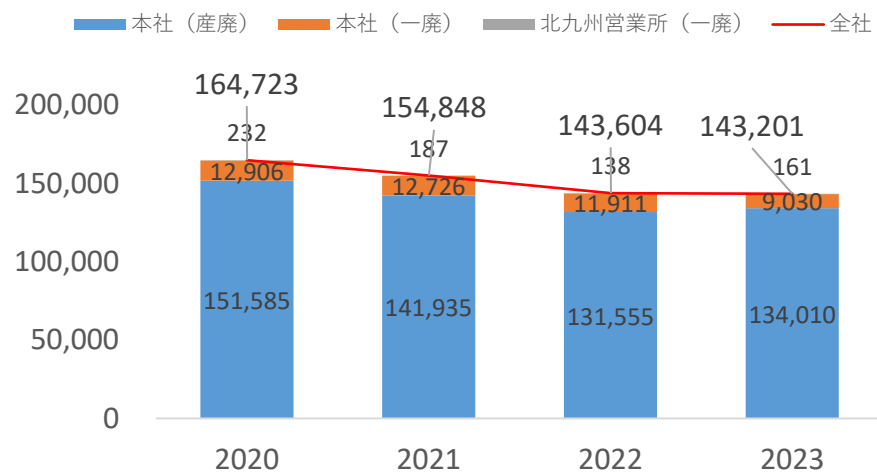
二酸化炭素総排出量(t-CO₂)



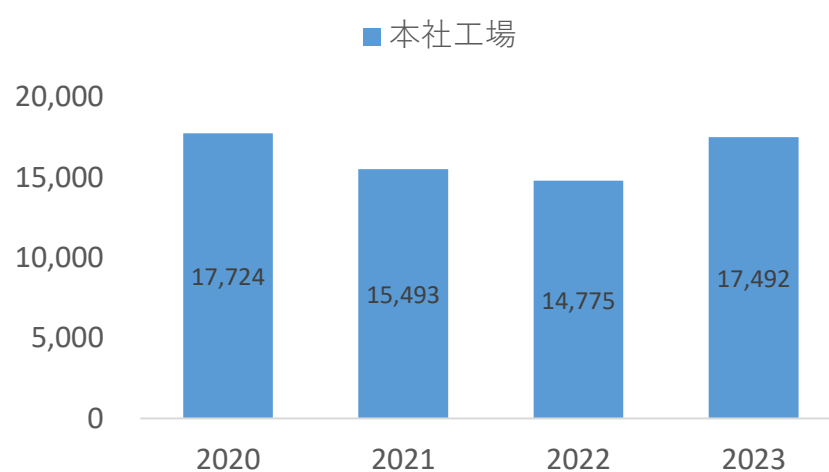
水使用量(m³)



廃棄物排出量(kg)



化学物質使用量(kg)



環境経営目標・実績①

全社

年 度 項 目		基準値	2023年		2024年	2025年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	1,550,574	1,335,712 86%	1,364,948 88%	1,319,750 85%	1,304,245 84%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	90,472	86,087 95%	89,895 99%	86,929 96%	86,024 95%
灯油、L P G の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	312,725	312,725 100%	193,636 62%	312,725 100%	312,725 100%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2 基準年比	1,953,771	1,734,524 89%	1,648,479 84%	1,719,404 88%	1,702,994 87%
一般廃棄物の削減 (可燃物を対象) ※再資源量を除く	kg 基準年比	13,369	9,383 70%	9,191 69%	9,249 69%	9,116 68%
産業廃棄物の削減	kg 基準年比	146,351	146,351 100%	134,010 92%	137,570 94%	136,106 93%
水道水の削減	m ³ 基準年比	21,241	14,956 70%	13,296 63%	13,108 62%	12,900 60%
化学物質の削減	kg 基準年比	19,324	17,585 91%	17,492 91%	17,585 91%	17,392 90%

環境経営目標・実績②

本社工場

年 度 項 目		基準値 (基準年度)	2023年		2024年	2025年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減（排出係数：0.418）	kg-CO2 基準年比	1,530,670 (2017年度)	1,316,377 86%	1,343,755 88%	1,301,070 85%	1,285,763 84%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	58,264 (2017年度)	57,099 98%	60,215 103%	58,264 100%	57,681 99%
灯油、L P G の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	312,725 (2017年度)	312,725 100%	193,636 62%	312,725 100%	312,725 100%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2 基準年比	1,901,659 (2017年度)	1,686,201 89%	1,597,606 84%	1,672,059 88%	1,656,169 87%
一般廃棄物の削減 (可燃物を対象) ※再資源量を除く	kg 基準年比	13,231 (2017年度)	9,262 70%	9,030 68%	9,129 69%	8,997 68%
産業廃棄物の削減	kg 基準年比	146,351 (2017年度)	146,351 100%	134,010 92%	137,570 94%	136,106 93%
水道水の削減	m ³ 基準年比	20,807 (2017年度)	14,565 70%	13,212 63%	13,108 63%	12,900 62%
化学物質の削減	kg 基準年比	19,324 (2017年度)	17,585 91%	17,492 91%	17,585 91%	17,392 90%
購入資材への環境配慮	グリーン購入比率		26%	26%	27%	28%
製品への環境配慮	製品の小型化・省資源化 自部署の整理整頓による作業の効率化 地域清掃・募金活動の社会貢献 客先の環境情報収集と社内への伝達 顧客向け講習会の開催 社内システムによる効率化 梱包方法の見直し					

環境経営目標・実績③

東京営業所

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2023年		2024年	2025年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素 排出量削減（排出 係数：0.462）	kg-CO2 基準年比	8,527 (2017年)	8,527 100%	8,894 104%	8,441 99%	8,356 98%
水道水の削減	m³ 基準年比	434 (2011年)	391 90%	84 19%		
購入資材への環境 配慮	グリーン購入 比率		83%	82%	84%	85%
製品への環境配慮	納期の取り纏めによる輸送回数の削減 過剰梱包の抑制					

北九州営業所

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2023年		2024年	2025年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素 排出量削減（排出 係数：0.463）	kg-CO2 基準年比	11,377 (2022年)	10,808 95%	12,299 108%	10,239 90%	10,126 89%
自動車燃料の二酸化 炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比	32,208 (2022年)	28,988 90%	29,680 92%	28,665 89%	28,343 88%
上記二酸化炭素排 放量合計	kg-CO2 基準年比	43,585 (2022年)	39,796 91%	41,979 96%	38,904 89%	38,469 88%
一般廃棄物の削減 ※再資源量を除く	kg 基準年比	138 (2022年)	121 88%	161 117%	120 87%	119 86%
購入資材への環境 配慮	グリーン購入 比率		33%	57%	34%	35%
製品への環境配慮	メンテナンスによる製品の長寿命化					

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容①

【本社工場】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	△	基準年 2.97kWh/万円 当年 2.71kWh/万円
昼休み等電気不要時の消灯		○	夏場は気温が基準年より3～4℃高く、目標達成できませんでしたが、冬場は逆に基準年より暖かかったので目標達成が続きました。累計では目標に2ポイント届きませんでしたが、生産金額当たりの使用量は基準年より少ない結果となりました。来期は老朽化した空調機を更新し、削減を図ります。
夜間、休日はPC、プリンタの主電源オフ		○	
生産性向上による電力消費の削減		○	
クールビズ、ウォームビズ励行でエアコンの使用を抑える		△	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	×	
急発進、急加速をしない		○	昨年度が順調に目標達成できたため今期の目標を厳しめに設定した結果目標達成できませんでした。適切な目標設定のためにも、自動車の利用状況の把握を検討する必要があります。
アイドリングストップの励行		○	
社有車の入れ替え時には低燃費・省エネ対応の車を選定する		△	
目的地へ最短距離で走行		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	○	
両面、集約、裏面コピーの活用		○	昨年に引き続き大規模なレイアウト変更があり、ペーパーレスが促進されました。来期もレイアウト変更を予定しており、大きなチャンスと捉えます。
使用済み封筒の再利用		○	
マイコップの推奨		○	
ゴミ分別の徹底		○	
産業廃棄物の削減	数値目標	○	
ウエス、軍手の節約		○	職場のレイアウト変更がありつつも目標達成することができました。来期も大規模レイアウト変更が予定されていますが、廃棄物の削減を心掛けたいと思います
通いカゴの推奨		○	
水道水の削減	数値目標	○	
節水の心掛け		○	節水の心掛けは全社で意識できています

環境経営計画と結果及びその評価、次年度を取組内容②

【本社工場】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度を取組内容
化学物質の削減	数値目標	○	安衛則の改正に合わせ、資格の取得や保護具の着用など適切に対応しております。使用量も目標達成しております
使用済みシンナー再生の推進		○	
化学物質のリスクアセスメントの推進		△	
シンナー等の節約		○	
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	×	総務課で購入している事務用品の中でエコ商品ではないものをエコ商品に替えていく活動を実施。徐々に切り替わり中です
事務用品のグリーン化		△	
環境関連セミナーへの参加		○	
製品への環境配慮	数値目標	—	各部署にて環境経営計画書を作成しており、それぞれにおける課題を挙げて環境活動を推進しています
職場内の整理整頓による作業の効率化		—	
展示会で環境配慮製品のアピールを行う		—	
製品の小型化・省資源化		—	
社会貢献	数値目標	—	地域清掃を8月から再開し、毎月開催しています。事務用品などを購入した際のポイントを赤十字社やユニセフなどへの寄付金にできるサービスを利用しています
地域清掃の実施		○	
自動販売機募金の実施		○	
赤十字やユニセフへの寄付		○	

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容③

【東京営業所】

【結果】 ○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	窓際の各エアコンを個別に調整することにより効率的な室温管理をしている。また、フリーアドレスにより各個人がエアコンの風の当たり具合により座席を選ぶことが出来るようになり、結果として全体のエアコンを省エネで稼働している。次年度においても、こまめな室温調整、ムダを可能な限り省いた効率的な照明を心掛けたい。
・ 不要箇所の電気の消灯。		○	
・ 照明の間引き(照明の効率化)。		○	
・ 夜間、休日のパソコン、プリンター主電源のOFFの徹底。		○	
・ ケルビズ、ウォームビズにより冷暖房の温度設定を抑える。		○	
・ エアコンの風向きを個別ルーバーにて調整し、効率の良い温度管理をする。		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	—	Docuworksを活用しつつ、各自モニターを複数台使用することにより、ペーパレス化が定着し、業務効率も上がった。また共有ファイルへの保存も定着している。次年度においても、ペーパレス化を軸に文房具類の再利用、一般廃棄物の削減と共に業務効率の向上に努めていきたい。
・ 見積や会議資料等の、Docuworksの活用によるペーパレス化の促進。		○	
・ 共有ファイル等の利用による文書の保存。		○	
・ 両面、集約等の機能を活用したコピーの徹底。		○	
・ 不要紙、使用済み封筒の再利用。		○	
水道水の削減	数値目標	○	節水意識に関しては課員に浸透しており、こまめな蛇口開閉を心掛けている。客先用のお茶もペットボトルにしており、更なる節水を実施できた。次年度においても、手洗い時の蛇口の調整を中心に節水を意識していきたい。
・ 手洗い、洗い物、うがいにおいての節水。		○	
・ こまめに蛇口を閉め、水量を減らす工夫をする。			
・ 蛇口を全開にしないようにする。			
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	○	グリーン購入が普通という意識が浸透している。グリーン購入対象外品が稀になってきている。事務所移転後も。引き続き文房具の再利用や資材購入の削減を継続している。
・ 可能な限りグリーン購入を実施する。		○	
・ 購入金額（母数）の削減に工夫及び努力する。			
製品・サービスへの環境配慮	数値目標	—	効率的な出荷業務が当然という意識になっている。CO2排出削減やコスト削減もまた普通のこととして捉えられている。引き続き、梱包材の材質やその廃棄量にも配慮し、SDGsを心掛けたい。
		○	

環境経営計画と結果及びその評価、次年度の取組内容④

【北九州営業所】

【結果】○：よくできた △：まあまあできた ×：できなかった

環境経営計画		結果	評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
昼休み等電気不要時の消灯		○	こまめな消灯は徹底できている。電灯の間引きも実施した。クールビズ、ウォームビズをさらにうまく実行しエアコン等の使用を抑える動きができればと考える。
夜間、休日はP C、プリンタの主電源オフ		○	
クールビズ、ウォームビズ励行でエアコンの使用を抑える		○	
残業削減による電力削減		○	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減	数値目標	○	
速度制限の厳守		○	左記の項目を課員全員が意識することで燃費向上することで二酸化炭素排出量の削減を目指す。
急発進、急加速や空ふかしの排除		○	
駐停車でのエンジン停止を励行		○	
一般廃棄物の削減	数値目標	○	
両面、集約、裏面コピーの活用		○	DWを使用し紙のプリントアウトは格段に減っている。また、可能な限り、PC内で処理をし、不必要なプリントアウトを削減する。まだ紙を使用している場合があるため少しずつデジタルで対応できるよう変更を進める。
使用済み封筒の再利用		○	
社内LAN、データベースの利用による電子化		○	
ゴミ分別の徹底		○	
購入資材への環境配慮（グリーン購入）	数値目標	○	
グリーン購入比率を高める		○	通期で目標値を達成できている。次年度も継続して削減率を見直し、達成できるよう注力する。
出来るだけまとめて発注し、簡易梱包を選ぶ		○	
製品・サービスへの環境配慮	数値目標	○	
メンテナンスを行い製品の寿命を延ばす		○	客先の定期点検工事の実施有無で大きく左右されるが次年度は達成できるよう注力する。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無①

【本社工場】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物 産業廃棄物 廃水処理装置 特管廃棄物
大東市火災予防条例	加熱炉
労働安全衛生法	クレーン ブラスト 電気炉 コンプレッサー 塗装ブース
クレーン等安全規則	簡易リフト
騒音規制法	空気圧縮機 集じん機 他
振動規制法	空気圧縮機 集じん機 他
化学物質排出把握管理促進法	エチルベンゼン トルエン キシレン
大阪府生活環境の保全等に関する条例	クレーン 研磨施設 集じん機 電気炉 溶剤洗浄施設 吹付塗装施設
大気汚染防止法	ボイラー 塗装ブース ショットブラスト
水質汚濁防止法	廃ガス洗浄施設
公害防止組織法	洗浄工場
フロン排出抑制法	空調 冷蔵庫 旋盤機械 エアドライヤー 冷水機
下水道法	廃ガス洗浄施設 表面処理施設
高圧ガス保安法	圧縮空気製造設備 窒素ガス製造設備
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無②

【東京営業所】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
東京都環境基本条例	一般廃棄物
資源有効利用促進法	製品の長期間使用並びに再生資源・再生部品の利用促進
小型家電リサイクル法	電子電気製品
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

【北九州営業所】

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例	一般廃棄物
フロン排出抑制法	サーバー冷却機
資源有効利用促進法	製品の長期間使用並びに再生資源・再生部品の利用促進
小型家電リサイクル法	電子電気製品
顧客要求事項	客先のグリーン調達情報等

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去３年間ありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

当社の主要な受注先の造船業界では、新造船需要が改善しておりますが、脱炭素化、労働人口の減少等外部環境の変化に、海運会社や造船会社は環境対応船へのシフトやデジタル化等の対応を進めており、船用機器メーカーにも環境対応船やデジタル化への対応が求められております。

船用向け製品であるバルブリモートコントロールシステムでは、一部の造船所向けではありますが、タッチパネルシステムに機能を集約することで制御盤の小型化を実現し、使用する材料を10分の1以下に削減することができました。また、システム設計の内製化に成功したことで製品の小型化も相まり、コスト削減に大きく貢献できました。

今後も、脱炭素に寄与する製品開発と販売促進、データを活用したコト売り事業の創出、DX・マスカスタマイゼーション生産体制の構築による生産性向上などの取り組みにより環境負荷削減の強化に努めてまいります。

令和6年8月9日
執行役員 中尾敏昭

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

主な環境活動の紹介

	環境活動	SDGs
電力	クールビズ・ウォームビズの徹底	
	工程管理で効率よく作業を行い、ムダな電力の削減	  
	各種機械設備の定期点検で高効率な運転の維持管理	  
ガソリン	社用車の定期点検を確実にを行い、良好な燃費を維持	 
	自部署だけでなく外注業者・来客者へもエコドライブの協力依頼、パンフレットの掲示を行う	 
廃棄物	詰め替え可能な事務用品を推奨し、リユース促進	 
	納入業者に通い箱の協力依頼	 
	レンタルウエスの利用	 
水	節水の呼びかけ・掲示による励行	
	工場巡回時に水漏れがないか調査	
	水のろ過装置を使用し、機械の水交換回数を削減	

主な環境活動の紹介

	環境活動	SDGs
化学物質	化学物質の少ない製品を調べる。納入業者に提案頂く	  
	パーツクリーナーの過剰使用を控える	  
グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの周知	 
	客先の環境経営に関する情報収集と社内への伝達	 
	エコマネジメントシステム取得業者からの優先調達	 
環境に配慮した製品づくり	新規製品の小型化や部品点数の削減による資源使用量の削減	 
	社内システムの改善により効率化を図る	
	5 S の徹底で作業効率・生産性を上げる	  
	外部とのメールの署名部分にEMS推奨の文言を入れる	 
	地域清掃や環境団体への募金で社会活動	  

環境活動紹介①



再資源化物置き場に
「リサイクルステーション」の看板を設置し、
リサイクルへの意識向上を図っています。



月に一度、最寄駅から会社までの通勤道路の
清掃活動を行っています。
自主参加ですが毎月たくさんの方が
参加しています。



社内に設置している自動販売機は、
売り上げの一部を募金団体へ寄付しています。

環境活動紹介②



環境配慮のポスターを実際に使用する場所に貼り、啓発。
(写真は紙コップ、エアコン温度設定のポスター)



消防訓練は消防署の協力を得て、通報、放水、消火器の訓練を行います。避難訓練は毎年違う部署で実施し、防災意識を高めています。

環境活動紹介③



定期的に各部署の過剰な在庫や不要な事務用品を回収し、再度要求時に配布することで無駄なく利用しています。



納品時



回収用ドラム缶



使用済ウエス

ウエスを洗濯して再利用するシステムを採用し、廃棄物の削減を図っています。



プリンターに認証システムを導入することでミスプリントを防ぎ、複数の印刷物をまとめてプリントアウトできるので効率も良くなります。

環境活動紹介④



←大阪ボイラ

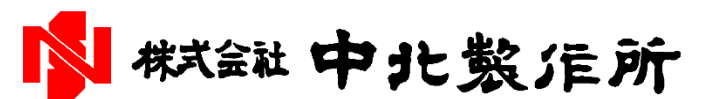
部品の分解整備→



コンプレッサーやボイラー、ポンプは定期的に分解・清掃・整備することで予防保全、劣化による効率の低下を抑えています。



タッチパネルに機能を集約することで、写真左の制御盤が写真右のサイズまで小型化されました。（オレンジの枠ぐらのサイズ感）



大阪府大東市深野南町1-1

TEL 072-871-1331

FAX 072-870-1865